

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 112

学校名・団体名	唐津市立平原小学校
HPアドレス	<a href="http://cms.saga-ed.jp/hp/hirabaru-e">http://cms.saga-ed.jp/hp/hirabaru-e</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさと大好き やまびこの子ども
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は唐津市の山間部に位置する全校児童51名の小さな小学校である。学校近辺はハウスみかん栽培が盛んであり、自然環境にも恵まれている。また、同町内には日本三大松原の一つ虹ノ松原が広がっている。児童は純朴で優しく、昔ながら小学生の印象が残っている。しかし、校区内にはコンビニはおろか、商店もない。また、坂道が中心で自転車に乗る平地も無い状況で、不便さを感じている。児童に自分が生まれ育った平原のよさを再認識させ、自分のふるさとや学校を心から愛し、誇りに思う児童を育てたいと今回の実施計画を立てた。</p>	

## <活動・研究報告>

### 活動報告

#### ①校内ホテル川、メダカ池の復活（6～7月 継続中）

PTAの協力を得て除草作業を行ったのち、4年生以上の児童による川のヘドロ撤去作業2週間程度行い、環境を整備した。また、5年生児童のお世話により、「メダカの里親プロジェクト」として、全校児童がフィルムケースを用いて、ポケットの中でメダカの孵化を行い、稚魚を大切に育て、7月にメダカ池に全校児童により稚魚の放流を行った。当日は、多くのメディアの取材も受けた。特に、サガテレビでは児童の取組を特集として放送していただいた。全校の児童及び保護者の方々も復活したメダカ池とホテル川を大変嬉しそうに見ていただいた。新しい川砂を入れ、今年夏のホテルの到来を全校で心待ちにしている。この活動を通して、ふるさと平原の自然環境のよさと、小さな命を大切に思う豊かな心が児童に育まれたと感じている。春になったら、新5年生が池のメダカを取り出し、産卵させて「メダカの里親プロジェクト2018」を実施し、全校児童による稚魚の放流を行う予定である。今後も、継続してホテル川、メダカ池の保全を伝統として伝えていくようにしたい。

#### ①PTAによる事前作業



#### ②稚魚の放流



#### ③稚魚の放流



#### ④池のアブラメの捕獲



#### ⑤メダカ池の清掃の様子



#### ⑥ホテル川の清掃の様子



#### ②全校児童による合唱（6月、10月、11月）

平原小学校の児童は歌うのが大好きである。今年度は、関西放送主催の「小さな音楽会」予選にも高学年10名により始めて予選に応募した。結果は、残念であったが全校的に歌を歌いたいという気運は高まった。その他、「浜玉町の文化祭」、学校での「やまびこ集会」などでも合唱の披露とオカリナの演奏を行うことができた。今回は、定期滝に歌の指導を受けたことにより、格段に歌声が良くなり、児童もそのことを自覚できたため、より生き生きと合唱やオカリナ演奏に取り組むことができた。オカリナ演奏では、校区民運動会の閉会式でも「ふるさと」を演奏し、大変好評であった。児童が自信をもって活動に取り組めたことと全校児童が気持ちをついにしたことにより、学校全体としてよりまとまり、より優しい雰囲気の学校となった。

#### ①オカリナの練習



#### ②浜玉町文化祭



#### ③やまびこ発表会



#### ④小さな音楽会練習



#### ⑤体育館での練習



#### ⑥オカリナ指導



### ③虹ノ松原松葉かき（12月）

日本三大松原の一つ「虹ノ松原」の松葉かきを全校児童で実施した。実施に際しては、虹ノ松原の保全活動を行っている「NPO 法人k a n n e」さんの協力と指導を得ながら行った。12月の寒い時期であったが、児童は熱心に活動し、松原の一角をきれいにすることができた。また、今回の実施にあたっては、佐賀県立唐津南高校の生徒の皆さんの協力もあり、高校生と交流を深めながら活動することができた。さらに、活動は1年～6年までの縦割り班の活動で行ったため、上級生が下級生を助けながら活動することができた。名称地の清掃だけでなく、いろいろな人々との絆を感じる活動となっていた。

#### ①唐津南高生からの説明



#### ②枝拾いの様子



#### ③松葉かきの様子



### ④バルーンリリース「届け仲良しの種」（3月）

4年生では、「人権の花 ひまわり」「震災復興のひまわり」の栽培を行ってきた。地域の方の協力もあり、大きな花を咲かせたり、ひまわりロードとなったりして、全校児童の遊びの場となっていた。今回、特に「人権の花ひまわり」については、今年いろいろな活動を通して仲が深まった自分たちの思いをできるだけ、多くの人たちに届けたいと考え、バルーンリリースを実行にうつした。花を育てた4年生がひまわりの種を「仲良しのたね」と命名し、種をいただいた人権擁護委員の方々、花作りを手伝ってくださった民生委員の方々、学校の近くにある平原保育園の園児の皆さん、全校児童が一緒になり、「仲良しのたね」がいろいろな場所で、仲良しの花を咲かしてくれることを期待して、大空にバルーンリリースを行った。飛んでいく多くのバルーンに自分たちの気持ちを込め、キラキラした目で見送る児童の姿は、本当に一つになった学校を感じる場となった。

#### 活動を通して得られた効果

- ・様々な活動を通して、平原小学校、平原地区、浜玉町と自分たちが生まれ育った地域を見直す機会となり児童は自分たちのふるさとの良さを実感することができていた。また、様々な活動を自分たちで成し得たことにより自己肯定感が高まったと考えられる。
- ・複数の学年、全校児童が協力して活動する場面を多く作ったことにより、協働で何かを作り出そうとする意欲が今まで以上に高まってきている。さらに、下学年の児童は、上級生になったら同じ活動をするのだという気持ちを持ち、学校の伝統の礎ができあがりつつある。
- ・様々な活動を行う児童の姿を見て、教員があらためて児童の可能性に気づき、少人数で閉塞的になりがちな学校の状況の中に新しい風を吹き込むこととなった。なった。
- ・新聞やテレビなどで、学校の様子が記事として取り上げられ紹介されたことで、児童のみならず、保護者等も学校に対して関心をもち、様々な場面で協力をしてもらい、今後の学校、地域と一体となった活動の足がかりをつくることができた。

